

議会だより

第1回定例議会

平成22年第1回西栗倉村議会定例会を3月10日に開会しました。

今議会では、総務委員長から総務常任委員会報告、監査委員から例月出納検査報告があり、一般質問の後、人事案件2件、条例制定7件、条例改正2件、平成22年度各会計の予算10件、平成21年度各会計補正予算10件等が審議され、いずれも原案どおり可決承認され、3月26日に閉会しました。

村長所信表明 (抜粋)

新政権のマニフェストによる新政策の主なものは、22年度から子ども手当一人月額1万3千円(村の自己財源は1/4程度)、次年度から2万6千円という大きな子育て支援、高校授業料の無料化、米農家へ戸別所得補償制度等の家庭支援策、高速道の一部無料化と

道路特定財源の廃止の延長、特別交付税の出口ベースでの1兆1千億円の増加と、地方の経済対策の実施など、地域経済の浮揚対策と個人消費の刺激対策が目白押しです。

また、地方分権から地域主権国家への移行に向けて、懸案の地方の自由裁量の一括交付金が前向きに検討されています。国と地方の役割が明確になりながら、権限と財源の移行と同時進行で執行されることを期待します。

グローバルizmと市場化のうねりを否定することなく、大きな時代背景を冷静に判断した「村の持続」が大きな課題です。「物づく」からスタートした全ての地域振興策を、「人づくり」からスタートさせて「人が集い、人が語り、人が参加して行動する」心身共に元気な村が永遠の課題です。時間と忍耐と大きなエネルギーが必要ですが、繰り返し「人が村をつくり、村が人をつくる」を世代を超えた集大成とします。

平成の大合併は、地方分権改革のためには合併を進めるしか方法

がないという感性で、平成11年3月31日には3,232あった市町村が22年1月31日には1,730市町村に再編されました。合併特例の期限を迎えて、国の強制的な合併は終わり、市町村の主體的な意志が優先されることにも変わることは大いに歓迎です。

今後村では、姫鳥道の開通後の利便性、人口減の現実、医療や教育の現場の状況、高齢化、独居老人及び岡山県自体の人口減など、住民の生活環境に直視した柔軟性のある政策展開が必要になります。

一般質問

草刈勇一 議員

モデルハウスについて

今建設中のモデルハウスは、仕上がりが間近です。私の思いとしては、息の長い事業を目指すのであれば難しいと思いますが、全部西栗倉村産の木材、西栗倉村内の大工さん全員の技を借りて、これこそ西栗倉の家として造り、この家こそ純粋な西栗倉産であると自

信を持つて市場に出せる家を目指すべきだと思います。このこだわりのところが、様々な付加価値を付けていくのではないのでしょうか。村長はどのように思われますか。

村長答弁

木材市場は極めて厳しい環境にあります。過去に対応できなかった木材の商品化、直販住宅、商品の多様性の挑戦がモデルハウスの建設です。

次に、全国一斉に拡大造林の間伐の時期を迎えます。そこで、環境に配慮した山林経営であるFSC認証を全山取得して付加価値をつける目標です。また、造林事業のコスト意識の徹底から、零細林家の山林集約化を図り、可能な規模の原理を取り入れます。造林全体の絵柄をインターネットで発信して、山林の管理をファンド化して広く村外に公募して、西栗倉ファウンダーを募ります。

「森の学校」を「森の商社」と位置づけ、「森づくり」と一体の村の暮らしを発信して、村独自の小

さな経済の創造に挑戦します。

今回の二戸の建設にあたって注意したことは、まず、激変する都市の住宅需要の多様性を関知していきます。そのために、都市部の住宅建設デザイナーを広くコンペで公募し、限りなく西栗倉材、村有林の材を使用しました。また、地域の雰囲気や自然に配慮して、村の職人に参加していただきました。木を使うことで村の経済循環をつくり、小さな経済の創造につながります。色々な苦勞の積み重ねを将来の糧として結びつけていく覚悟です。

國里吉文 議員

①風力発電について

平成20年秋に、塩谷・長尾地区の山（稜線）に高さ40m〜50mの風況ポールを設置してから1年以上が経ちました。風況調査の結果、その後の開発、会社の動向や風力発電を取り巻く状況、また風力発電で西栗倉材にどれだけの利点や心配な点があるかと考えておられるのかお尋ねします。

村長答弁

身近で可能性の高い自然エネルギーについては、できるだけ検討を重ねます。しかも外部資金が入ればなお素晴らしいと考えます。風力・水力・太陽光・地熱等の可能性があるのでと考えています。自己財源が15%、山間地の村にとって長期的な増収の効果は、非常に魅力があります。

ただし、条件設定にあたって住民の色々な障害についての説明責任と克服は絶対条件です。

産業建設課長答弁

風況調査の結果ですが、平成20年の12月から平成21年の12月までの一年間で実施しています。結論としては、年間平均で毎秒5m弱の風があり、特別良い風とまでは言えません。その後の会社の動向、風力発電を取り巻く状況ですが、クリーンエナジファクトリーという会社が津山と西栗倉で事業展開を予定されています。津山については、保安林解除等の許認可の手続きを現在しており、地元から支

障になるような案件は今のところ出ていないようです。今年の秋か来年の春に着工予定で準備をしています。来年単価が決定次第、西栗倉材の事業についての指示判断を行う予定です。万が一、西栗倉材が採算性を考慮して事業をしないことになっても、知社から筏津にかけての送電線埋設は実施する予定です。

風力発電の西栗倉材に対する利点としては、風力発電の機器が設置されれば固定資産税の対象になります。この固定資産税に対する税収が見込まれること、地下埋設の送電線を行うことで道路占用料が発生するという内容と、工事用の作業道が入るので付属して迂回利用等が可能になるなど、大きな利点だと考えています。心配な点については、人家から遠いので風力発電で出る低周波の被害について、工作物が山林に建設されるので環境の問題が出てくる可能性があります。

國里 吉文 議員

②姫鳥自動車道の開通と今後について

いよいよ、3月下旬に佐用・大原間と河原・鳥取間が開通します。そして、3年後には大原・西栗倉間も完成して全線開通するとのことです。西栗倉材にとって有益な道路となるように努力をしなければと思います。通過の村となれば、観光関連産業は大きい打撃を受けます。今回の開通に対しての取り組み、そして3年後の全線開通に向けての取り組み、特に今あるものを活かすということで、観光施設の駐車場などの設備面と、立ち寄ろうと思わせる運営企画、以前にも提案した国土交通省認定のハイウェイオアシスについて、これらに対するお考えと村長の方針をお聞かせください。

村長答弁

姫鳥道の開通は、まず住民の利便性が高まります。特に、日常的な買い物や医療圏内の拡大による安

心感、雇用環境等「住んで見たくなるような西栗倉」の生活環境の改善が飛躍的に高まります。「物の豊かさ」から「心の豊かさ」に主眼を変えて、「心産業」を興すことが新しい西栗倉の課題です。山陰地域、岡山の人口減が現実の数字になったり、極めて厳しい経済環境での開通になります。また、スーパ―はくとの乗客の大半が鳥取市、大阪市の顧客という現実や、CS調査で373号を通過する車の約13%が立ち寄るというデータがあるように、百貨店を始め温泉旅館等の客商売は極めて厳しい環境にあります。

「100年の森づくり」と公社での採用には、ここ2年間で22家族38人が定住しています。小さな村が小さいからできることを守ることも大切ですが、外から色々な人材を受ける勇気を持つことも、将来の西栗倉にとって大いなる変革への挑戦です。「人が集い、語り、行動する」元気な村が「上質な村」と確信しています。ハイウェイオアシスについては、

高速道路のパーキングと一般道の公園や地域振興施設との共有です。あわくらんどと旬の位置づけも、現実的にはハイウェイオアシスかもしれない。河原の道の駅がハイウェイオアシスを取得しているとすれば、私人としては魅力は半減です。西栗倉は小さな村で、秀でた観光資源はないのではと考えます。これからの課題は西栗倉全体を一つの「額」ととらえ、それに村民がゆつくりデザインをしていくことが大切ではと考えます。

報告

- ◇各組合議会報告
- ◇総務常任委員会報告
- ◇例月出納検査報告

(3月15日実施分)

可決した議案

《人事案件》

- ◇固定資産評価審査委員会委員の選任同意

井上 紀代二 氏(再任)

大茅五七九番地

(井上紀代二氏任期満了による)

- ◇監査委員会委員の選任同意

高木 宣美 氏(選任)

筏津十六番地一

(政久廣幸氏退任による)

《条例の制定》

- ◇西栗倉村森の学校設置及び管理条例
- ◇西栗倉村木の家モデルハウス設置及び管理条例
- ◇西栗倉村坂根工舎設置及び管理条例
- ◇西栗倉村定住促進住宅設置及び管理条例
- ◇西栗倉村地域経済活性化・公共投資基金条例
- ◇西栗倉村木材処理加工施設の設置及び管理条例
- ◇西栗倉村村民栄誉表彰条例

《条例の改正》

- ◇西栗倉村職員の給与に関する条例
- ◇西栗倉村議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例

《備品購入契約の締結》

木材流通加工施設機械設備購入契約

【契約金額】 四八、八四六千円

【契約相手方】 岡崎機械株式会社

《その他議決事項》

〈指定管理者の指定〉

- ◇老人憩いの家
- ◇農業構造改善センター
- ◇林産物需要拡大施設
- ◇青少年学習センター
- ◇大茅スキー場
- ◇交流の館・黄金泉
- ◇あわくら旬の里
- ◇観光拠点施設アゴラあわくら
- ◇国民宿舎あわくら荘
- ◇森の学校
- ◇木の家モデルハウス

《平成22年度予算》

平成22年度の各会計の予算が議決されました。

《補正予算》

- ◇一般会計(第9号)

補正額 △二、二一四千円

予算総額 一、三七六、五四二千円

- ◇国保事業会計(第5号)

補正額 △五、三七九千円

予算総額 二四八、七八九千円

◇国保診療所会計(第4号)

補正額 　△四、三八三千元

予算総額 　七〇、一一五千元

◇後期高齢者医療事業会計(第4号)

補正額 　△三七〇千元

予算総額 　一七、八四七千元

◇老人保健事業会計(第2号)

補正額 　七四千元

予算総額 　三、四六四千元

◇介護保険事業会計(第4号)

補正額 　△二、五九四千元

予算総額 　一七三、六二三千元

◇介護サービス事業会計(第2号)

補正額 　〇千元

予算総額 　五、六二九千元

(歳出節科目の入れ替え)

◇簡易水道事業会計(第4号)

補正額 　△二、二七〇千元

予算総額 　五九、七八九千元

◇農業集落排水事業会計(第4号)

補正額 　△一、四〇九千元

予算総額 　一一四、四一四千元

◇観光事業会計(第7号)

補正額 　八、七七九千元

予算総額 　五三、八三二千元

新田佳浩選手 2つの金メダル胸に帰国！ ～バンクーバーパラリンピック閉幕～

3月12日(金)～21日(日)に開催されたバンクーバーパラリンピックの中で、新田佳浩選手が2個の金メダルを獲得され、3月24日(水)に無事帰国されました。

日本チームは新田選手の金メダル2つをはじめ、前回トリノ大会を上回る過去最高の11個のメダルを獲得しました。今大会、新田選手は日本選手団の主将として、名実ともに日本チームを引っ張りました。

新田選手の頑張りに、西粟倉村民をはじめ、多くの人々が勇気と感動を与えられました。

本当にありがとうございました。



金メダルの喜びをかみしめる新田選手



金メダル直前!!



『激走！激走！激走！』



表彰台の真ん中！
おめでとうございます！